



5/23 密葬



5/23 還骨勤行

念信寺 前坊守

湧水院釋尼衆悦 俗名村上悦美 儀

八月二十一日午前三時 行年九十一歳を以て往生の素懐を遂げました
門信徒有縁の皆さまには大変お世話になりました

住職・責役・総代協議のうえ本葬儀を以下のように執り行わせていただきます

●本葬儀

十月五日(木) 午後二時より

念信寺本堂にて

なお

通夜は八月二十二日午後八時

密葬はリ二十三日午前九時より

いずれも念信寺本堂で相務めました

ここに生前のご厚誼を深く感謝致しますと共に謹んでお知らせ申し上げます



妙見山 念信寺

住職

責役・総代

世話人一同

見送るとは・・・

よしだあきかず 吉田昭和 (北九州市小倉北区)

念信寺前坊守様が命 終なされたとの事、心よりお悔やみ申し上げます。前ご住職と前坊守様は私の父とは大変親しくして頂き、父の亡き後も、多くの事でご指導・お教えを頂いた事を忘れる事は出来ません。



親しき人、身近な人が亡くなられた時に、「お見送りをする」と言う。亡くなられた事に対する悲しみと、この世での感謝とお別れを込めて、あの世への旅立ちを「見送る」という事ではないだろうか。

以前、寺報『仏法領』の中で、従兄の死について寄稿した事がある。葬儀での最後のお別れの時に、親族達が彼の棺に寄り添い、「有難う」と言っていた事を思い出す。各人の「有難う」の気持ちには異なっているが、感謝の気持ちで別れを告げる事が「死者への真の見送る」と言う事ではないだろうか。

他方、現世で毎日を過ごしている人々への「見送る」について考えてみたい。

目上の人、親しい人、家族等との別れを惜しむ、再会を願う、帰路の無事を願う等の気持ちを込めて相手を見送る事も、「見送る」と言う事であろうと思う。

死者とのお見送り、現世の人とのお見送りも、見送る一人一人がそれぞれの相手を思う気持ちで行うもので、人々の気持ちをこめた 同じ行いではないかと思う。

子供会の思い出

たかひろ 大石隆宏 (長崎市)

お寺の若いおばあちゃん、一番深く残っている思い出は小学生の頃にお寺で開かれていた子供会です。私が小学生の頃、土曜日の午後や日曜日にお寺の子供会に行くのが楽しみの一つでした。お寺ではご院家さんが正信偈の読み方を教えてくださり、子どもでもわかりやすく説法を聞かせて頂いた後、若いおばあちゃんがお菓子をふるまってくくださる、そういう会でした。

今思えば、この子供会のおかげで法要の場などでそれなりの振る舞いができ、また浄土真宗の教えにも同世代の方に比べると詳しくなれ、そういう意味でも有意義なものでしたが、当時の私にとってはおばあちゃんが振る舞ってくれるお菓子が一番の楽しみでした。そしていつもニコニコと子供たちの話を聞いてくださるとも優しい方でした。子どもの頃おしゃべりが苦手だった私の話もちやんと聞いてくださったことを覚えています。

最後にお会いできたのは、3年前、長女が7歳、次女が3歳となり、七五三を念信寺さんにお願した時でした。お会いするのは本当に久しぶりでしたが、以前と全く変わらず、穏やかな笑顔で優しく出迎えてくださいました。その時とてもお元気そうだったので、突然のご訃報を聞き悲しい気持ちでいっぱいです。謹んでお悔やみ申し上げます。



本堂大屋根修復 会議状況

●皆作世話人会議 (7月18日(日))

3ブロック2名ずつ検討委員を選出することになり、以下の方に各ブロック代表として了承いただいた。

- 木井谷【小野秀典、奥恒行】
- 犀川谷【村上洋子、森田美由紀】
- 上高屋【村上高茂、竹内寿一】

検討委員会は、ブロック代表6名に住職・坊守・責役・総代の計12名 敬称略

●第1回検討委員会 (7月16日(日))

委員初顔合わせ、今後についての話し合いの結果、工事費用を出して貰えないと検討が始まらないので、3業者に見積りを作成してもらうことになった。



●第2回検討委員会 (8月27日(日))

提出された2業者の見積りについて検討。

●第3回検討委員会 (9月10日(日))

花元建設の見積書をもとに社長から建設の概要、見通しについて説明を聞き、質問をした。次回はもう一社から説明を聞く予定。



後堂屋根、波打っている



波打ち瓦ずれ